

みなさん、本日は臨床研修修了、おめでとうございます。ご指導いただいた指導医、上級医、指導者のみなさん、ありがとうございます。こうしてみなさんの晴れやかな顔を拝見していると、よくがんばったな、よかったなという気持ちになって、こちらまで嬉しくなります。

思い起こせば、みなさんが研修を始めた日は、セイント先生の教育回診の日だったかと思います。いきなり英語のレクチャーで、内容もやさしくはなくて、とんでもないところに来たなあとと思ったかもしれません。その日の夜の歓迎会では、目を輝かせて希望を語っていたのが、昨日のこのようです。

研修医も学年ごとにカラーがありますが、みなさんの学年は、9人マッチングしたはずが、いろんな事情で7人に減ってしまって、はじめは何かというか、控えめで、おくゆかしい学年だという印象を受けました。そのため最初は、みなさんの心の中がよくわからなくて、とまどったこともありました。

加えてみなさんは学生時代からコロナの影響を大きく受けていましたし、当時はまだ当院でもいろんな制約があって、なかなか思うに任せない研修のスタートだったかもしれません。

それでも、指導医や指導者のみなさんが暖かく見守ってくれて、それからみなさん自身も考えたり、話し合ってくれたりしたのだと思いますが、充実した研修を送ってくれるようになりました。各診療科での研修はもちろん、不識庵のイベントなどにも、声を掛け合ってみんなで参加してくれました。楽しかったことばかりではなく、つらいことも、うまくいかないこともたくさんあったと思います。それにくじけず、今日まで一所懸命に研修に取り組んでくれたことに、拍手を送りたいと思います。

今では、ぼくのみなさんへのイメージは、向上心あふれて、お互いを気遣い、みんなで成長しようとする、まとまりのある学年だというものです。それはいつの間にか信頼に変わって、こちらから相談させてもらうこともありました。そんなみなさんの姿は、一年生をはじめ、後輩たちに必ず受け継がれてゆくものと思います。みなさんと会えたこと、みなさんのふるまいに、心からありがとうと言いたいです。

みなさんはこれから、それぞれの道を進みます。研修医はある意味守られた存在でしたが、これからは一人で考えて、行動しなければなりません。今まで以上に険しい道のりだと思います。でも、自分で選んだ進路ですから、悔いのないように、存分に励んで、自分を成長させてほしい、そう思います。

そんなみなさんに、エールです。険しい道だからこそ、気をつけないといつの間にか視野が狭くなってしまいます。忙しい毎日でも、ときには自分自身を見つめ直してください。一番大切なこと、すなわち自分はなぜ医者になろうと思ったのか、医療を通じて、自分が生きた証をどんなふうに世の中に残すのか、そんなことに思いをはせて、それに適う自分であるかどうかを、問いかけて下さい。

もうひとつ。上越総合病院は、みなさんの母校であり、ふるさとです。つらいことがあったら、自分の足跡を確かめたくになったら、いつでも訪ねてきてください。もちろん一緒に仕事ができれば最高です。それから、OBとして、お手本として、当院の後輩研修医のために、これからも力を貸してください。

みなさんが健やかに成長して、人を幸せにして、社会に貢献できる医師になることを心から願っています。おつかれさまでした。おめでとう。